

第 40 回原子力安全専門委員会定例会
(結果概要)

平成 26 年 7 月
原子力安全対策課

日 時：平成26年 7 月16日（水）15時00分～17時00分

場 所：福井県庁10階 1002会議室

出席委員：中川委員長、田島委員、飯井委員、泉委員、大堀委員、望月委員

議 題：

1. 原子力発電所周辺の環境放射能調査報告について
・平成 25 年度（第 4 四半期分報告）
2. 発電所の運転および建設状況について
（平成 26 年 3 月～平成 26 年 6 月）

結果概要：

会議の冒頭において、事務局より新たに委員に就任された大阪大学の望月教授の紹介を行った。

議題 1（原子力発電所周辺の環境放射能調査報告）について事務局より概要を説明。

- ・ 県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・ 浮遊じん放射能の連続測定結果についてはいずれも天然放射能のレベルであった。
- ・ 今期間も、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響と考えられるセシウム 134 および福島第一原子力発電所事故や核実験フォールアウト等の影響によるセシウム 137 が検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。
- ・ 大気中水分、雨水および海水から発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。

- Q. 海洋試料の調査結果について、今期間も福島第一原子力発電所事故の影響によりセシウム 134 が検出されているとのことだが、この解釈については、今も（放射性）核種であるセシウム 134 が福島第一原子力発電所より出続けていると考えら

れるのか、それとも事故時に放出された放射性核種が沈着等により現在も検出されているということか。

A. 平成 23 年 3 月より、セシウム 134 の検出が続いているが、放射能濃度の値は以前と比べると下がっているため、事故時に放出された放射性核種が継続して検出されているということである。

Q. 福島第一原子力発電所事故前の実績（検出限界未満）に戻るためには何年程かかるのか。

A. 現在、検出限界に近いところで推移しており、セシウム 134 の半減期（およそ 2 年）を考えると、程なく検出限界未満になるものと考えられる。

議題 2（発電所の運転および建設状況）について事務局より概要を説明。

委員からは特にコメントは無かった。